

# 教育研究所情報発信誌

# KEYAKI

11月

下野市 教育研究所

## 災害に対する備え ～最悪を想定し、最善を尽くす～

10月に関東を直撃したを襲った台風19号では、下野市内も大きな被害を受けました。田川、姿川に氾濫のおそれがあり、避難所として開設された公民館や学校では、たくさんの市民が眠れぬ夜を過ごしました。県内では被害を受けた建物やライフライン、未だ通学路の安全が図れず、保護者の送迎が必要な地域もあります。

学校で子どもたちの安全を確保するため、また、先生方ご自身とご家族の生活を守るため、各校の危機管理マニュアルを見直したり、お住まいの地域の避難情報やハザードマップを確認したりするなど、いつ直面するかわからない災害に、常に備える意識をもち、お互いに気を付けていきましょう。



※11月1日現在の予定です。詳細は文書で御確認ください。

※時間のみ記載の研修会の場所は、市役所になります。

※市教育研究所主催行事 市関係行事 学校関係行事 その他

日	月	火	水	木	金	土
					1 ・児童表彰(緑小、国分寺小) ・ふれあいキャンプ(大平少年自然の家)	2 ・学習発表会(薬師寺小、吉田東小、石橋北小)
3	4 振替休日	5 ・児童表彰(古山小)	6	7 ・下地区主幹教諭・教務主任研修会(壬生町中城址公園ホール) ・下小教研B部会	8 ・市幼小連絡協議会研修会公開授業(祇園小) 13:30 ・要請訪問(吉田東小)	9 ・子ども未来プロジェクト 13:30~ ・学習発表会(細谷小、国分寺小)
10	11	12 ・栄養教諭・学校栄養職員研修会 9:00~	13 ・要請訪問(国分寺東小) ・S&U(細谷小) ・市ALT研修(緑小)	14 ・市定例教育委員会	15 ・S&U(国分寺小)	16 ・学習発表会(吉田西小、石橋小)
17	18	19 ・下地区人権教育研修会(岩舟文化会館) 13:00~	20 ・S&U(国分寺中) ・小中一貫の日(南河内二中学区)	21	22	23 勤労感謝の日
24 ・グリムの森イルミネーション ~1/3	25 ・共同訪問(吉田西小)	26 ・学校図書館活用研究15:00~	27 ・市定例校長会議 ・S&U(祇園小、南河内中) ・小中一貫の日(国分寺中学校区)	28 ・S&U(南河内二中) ・市学校図書館教育担当者研修(石橋図書館) 15:30~ ・市学校給食食物アレルギー対応委員会	29	30 学習発表会(古山小) ・福祉フェスタ

## 幼小連携事業

10月5日、第二薬師寺幼稚園にて、下野市幼小連絡協議会第2回研修会として保育参観が行われました。市内の小学校、幼稚園、保育園、認定こども園の教員、保育士30人以上が見守る中、園児たちは、鍵盤ハーモニカを練習したり、ハロウインの飾りを制作したりとのびのびと活動していました。

その後の研修会では、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を観点として、子どもたちの保育の様子について話し合いを行いました。この『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』は、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図るためのキーワードとして、「幼稚園要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」「小学校学習指導要領」において示されています。

遊びを中心に総合的に学ぶ幼児教育と、各教科等を中心に系統的に学ぶ小学校教育には、カリキュラムの構成原理に大きな違いがあります。幼小の教職員が、本研修会等を通して、それぞれのカリキュラムを見直すことは、接続期に大切にしたい具体的な子どもの姿や教職員の関わり方を共有することにつながります。次回の研修会は、11月8日に祇園小での公開授業を予定しています。



栃木県幼児教育センター資料より

## 個別の教育支援計画の活用について

後期が始まり、間もなく1ヶ月になります。前期の教育活動を見直し、子どもたちのよりよい成長につながる取組に努められていることと思います。その一つとして、個別の教育支援計画の「指導計画」がありますが、どのように活用を図っていますか。PDCAサイクルを意識し、現在の目標が、子どもたちの主体的な取組につながっているか確認してみましょう。

### (1) 子どもへの接し方・かかわり方を振り返る

肯定的な実態把握は、共感的な対応、子どもの可能性の探求につながります。

### (2) 具体的な目標を設定する

具体的な姿を目標に定めることは、達成感、自己肯定感につながる指導となります。子どもにとっても具体的な到達点があり、自己評価の視点にもなります。指導者の指導目標と子どもの達成目標が一致することは、とても大切なことです。

#### 目標、手立ての設定で、留意すること

- ア) 成就感、自己肯定感が味わえる内容になっているか。
- イ) 実際の経験を通じた具体的な取組になっているか。
- ウ) うまくいっている側面を生かし、自信を持って意欲的に取り組める内容になっているか。
- エ) 自己理解を進め、自ら取り組もうとする意欲につながる内容になっているか。

### (3) 評価の観点を明確にする

目標を具体的な子どもの姿で記入することで、評価の視点が明確になり、指導・支援の振り返りにもつながります。

- ◇ 具体的で明確な個別の教育支援計画を作成することで、指導の意図を明示することができます。校内での支援体制を整えたり、保護者に対する説明責任を果たしたりすることにつながります。



